

福井県平和・環境・人権センター
議長 勝見義治

福井県敦賀市長への抗議打電要請について

日頃の活動に心より敬意を表します。

政府が、「もんじゅ」の廃炉へ向けての今日が最終段階に入っているとの報道が、各紙のトップをにぎわせています。

21年間にわたる原水禁や私たちの運動が、ようやく実を結ぼうとしています。

この間の努力に対しまして心より感謝申し上げます。

このような中、渕上敦賀市長は、「もんじゅ」を廃炉にさせないようにと叫び、政府などに要請を続けています。

市民の声も聴こうともせずこのような醜態をさらしていることに対し、私たち福井県民として全く許せない思いでいっぱいです。

そこで、この醜態にくさびを打ち、「もんじゅ」の廃炉を確定させていくために全国からの打電行動をお願いいたします。

記

1、打電先・・・福井県敦賀市中央区2丁目1番1号

敦賀市長 渕上隆信（ふちがみ たかのぶ）

2、電文の例

- ① もんじゅは、大変危険な原子炉であり、安全管理出来ない物の存続を望むことを直ちにやめよ。
- ② 市長が安全を確保できる当てもないのに、もんじゅの存続を望むのは直ちにやめよ。
- ③ もんじゅが過酷事故を起こしたら私たちの暮らしや生命・健康が奪われてしまう。自分たちの都合だけで国に働きかけるべきでない。
- ④ もんじゅには、これまで1兆2千億円も投じてきている。成功するはずがないのにさらに6千億円+3千億円も税金を使うことを許せない。自分たちだけがよいでは済まされない。
- ⑤ もんじゅが過酷事故を起こしたときは、敦賀市長が責任を取れるのか。自分たちの利益だけで住民の命や健康を危険にさらさないでほしい。
- ⑥ もんじゅの再稼働に反対している住民は、大変多くいます。敦賀市民だけでも60%を超えていると思いますよ。ましてや日本全土においては、信じられないぐらいの皆さんが反対しています。住民の声もまともに聞かないで、住民の財産を奪い、命や健康までも奪うもんじゅの存続に奔走するのは、直ちにやめるべきです。



もんじゅについて「廃炉が前提となることはない」と話す洲上市長＝13日、敦賀市役所

もんじゅ

「廃炉前提ないと信じる」

敦賀市長 存続 重ねて要求

政府が日本原子力研究開発機構の高速増殖炉もんじゅ(敦賀市)を廃炉にする方向で最終調整に入ったとの報道に、同市の洲上隆信市長は13日、報道陣の取材に「廃炉という前提はないと信じている」と述べ、あらためて存続を求める姿勢を示した。

文部科学省敦賀原子力事務所から、方向性は決まっていなと説明を受けたことを明らかにし、「(廃炉など)何ら地元には話があると思う。もんじゅは研究開発の役割を十分に果たして、廃炉にすべきでない」と強調。「役割を果たせる運営主体を示すこと

洲上市長は8日に急ぎ上京し、松野博一文科相と面談。「廃炉にするなら、あす目が覚めたら更地になっているようにしてほしい」と語気を強め、成果が出ないままの撤退を強くけん制した。この日も「市長が報道だけを前提に会見に臨むのはまれ(市幹部)で、地元として危機感を訴えた格好だ。

サイクルに20～30年はある。なかがある」ともんじゅけが相次ぎ昨年委員会が機構を特定する施設の在り方を求め、答えるよう願に勧告して

廃炉となった場合の影響に